



2019 年度 決算報告

2020 年 6 月 26 日
日販グループホールディングス株式会社

目次

1. 経営成績
 - 1-1. 連結経営成績
 - 1-2. 連結事業別業績
 - 1-3. 連結計算書類
 - ① 連結貸借対照表
 - ② 連結損益計算書

2. 補足資料
 - 2-1. 連結子会社一覧
 - 2-2. 連結主要経営指標の推移

1. 経営成績

1-1. 連結経営成績

連結会計年度 2019年4月1日～2020年3月31日

単位：百万円・%

	2019年度	2018年度	前年差異	前年比
売上高	515,922	545,761	▲29,839	94.5
営業利益	2,474	1,026	1,447	241.0
経常利益	2,441	1,084	1,357	225.2
親会社株主に帰属する当期純利益	781	▲209	990	—

グループ連結で黒字転換、取次以外の事業が牽引

日販グループ（連結子会社数 27 社）の 2019 年度決算の売上高は 515,922 百万円。主な要因として、コミックスの増収が牽引するも、雑誌・書籍の店頭販売の落ち込みにより前年比 94.5%、29,839 百万円の減収となりました。

営業利益は、グループ全体で固定費の削減に取り組んだ結果、全体では 2,474 百万円（前年比 241.0%）となり、1,447 百万円の増益。経常利益は 2,441 百万円（前年比 225.2%）となりました。

特別利益 174 百万円、関連会社株式評価減 456 百万円、事業再編損 335 百万円、減損損失 257 百万円等の特別損失 1,253 百万円及び法人税等を加減した、親会社株主に帰属する当期純利益は 781 百万円と黒字転換しました。

当社グループは、2019 年 10 月 1 日に日販グループホールディングス株式会社を親会社とした持株会社体制に移行しました。それにより目指すのは、グループの本業である取次事業の改革に専念し本業を復活させることと、成長事業を強化しグループとしてさらに拡大していくことです。

後述の事業別業績の通り、グループにおける取次事業、特に日本出版販売㈱の営業赤字が続く一方で、それ以外の事業すべてが黒字となっています。海外事業、コンテンツ事業、エンタメ事業の増収増益に加え、小売事業、雑貨事業の営業利益が黒字転換するなど、当社グループは、持株会社体制のもと、「独立と連携」をキーワードに、グループ各社がそれぞれに事業を拡大し、利益を生み出しています。今後もグループ経営としての成長を目指してまいります。

1-2. 連結事業別業績

○取次事業

単位:百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	475,815	504,759	94.3
営業利益	▲34	▲340	—
経常利益	253	326	77.6

取次事業は売上高 475,815 百万円(前年比 94.3%)、営業損失 34 百万円、経常利益 253 百万円(前年比 77.6%)、73 百万円の減益となりました。

日本出版販売(株)は、BOOK の大幅減収や運賃効率の悪化に対し、固定費の削減や荷造費の圧縮を図ったことに加え、事業再編に伴う親会社との経費精算など特殊要因があり、営業赤字幅を削減しました。しかしながら依然として営業赤字は続いております。詳細につきましては、日本出版販売(株)の決算報告資料をご参照ください。

(株)MPD では、BOOK に加えてゲーム、セル、レンタルにおいても減収となりましたが、文具雑貨の取引店舗数拡大による増収に加え、拠点再編等の固定費削減により増益となりました。

なお、持株会社体制移行に伴い、従来は取次事業に含めていた受取配当金、金融収支については、2019 年度よりその他の事業へ区分を変更しております。

【主な子会社】

日本出版販売(株)、(株)MPD、出版共同流通(株)、中三エス・ティ(株)、日販物流サービス(株)など

○小売事業

単位:百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	61,015	62,613	97.4
営業利益	17	▲18	—
経常利益	50	15	334.2

小売事業は、売上高 61,015 百万円(前年比 97.4%)、営業利益 17 百万円と黒字転換、経常利益は 50 百万円(前年比 334.2%)となりました。

グループ書店全体では BOOK、レンタル等で減収も、利益率の高い文具・雑貨商材の売場拡大による売上が伸長したことに加え、前年度からの不採算店舗の撤退、本部機能の効率化や賃料等の管理費を削減したことが奏功し、営業利益の黒字化を実現しました。

当事業年度のグループ書店の新規出店は 5 店舗、閉店は 17 店舗で、2020 年 3 月末時点の店舗数は 250 店舗となりました。

○海外事業

単位:百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	6,855	6,272	109.3
営業利益	212	160	132.4
経常利益	223	166	133.9

海外事業は、売上高 6,855 百万円(前年比 109.3%)、営業利益 212 百万円(前年比 132.4%)、経常利益 223 百万円(前年比 133.9%)、56 百万円の増益となりました。

日販アイ・ピー・エス(株)は、海外駐在員向け生活支援サービスである「CLUB JAPAN」が、新規顧客の獲得等により堅調に売上を伸ばし、多くのお客様にご支持いただきました。出版流通代行事業についても新規取引が増え、売上が伸長しました。輸入事業においては雑誌の増売や仕入原価の低減を図ることができました。以上の結果、増収増益となりました。

○雑貨事業

単位:百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	1,933	1,794	107.8
営業利益	8	▲52	—
経常利益	113	146	77.7

雑貨事業は、売上高 1,933 百万円(前年比 107.8%)、営業利益 8 百万円、経常利益は 113 百万円(前年比 77.7%)、32 百万円の減益となりました。

(株)ダルトンは、DULTON MARKET STORE グランベリーパーク店をはじめとして 3 店舗を新規出店しました。その結果、店舗数はリアル店舗 10 店、オンライン店舗 1 店の計 11 店舗となりました。オンライン店舗は 2019 年 4 月に ZOZO モールへの出店を行っております。そして、店舗の空間設計を提案する商店建築ルートの売上拡大を図るべく、武蔵村山店に BtoB を意識した提案スペースの開設も行いました。こうした取り組みが奏功し、営業利益で黒字転換をすることができましたが、為替の影響によって営業外収益が減少したことで、経常利益段階で減益となりました。

また、(株)なかやしき様が北九州にオープンした“イマジネーションと遊ぶ大人の基地”をコンセプトに掲げる「n-BASEMENT」につきまして、心を豊かにするような空間の実現に向け、(株)ダルトンや、日本緑化企画(株)、日本出版販売(株)の営業部門・リノベーション推進部が一体となり、企画のご提案をさせていただきました。「n-BASEMENT」では、ダルトンのインテリア・雑貨や、日本緑化企画(株)が手掛けるグリーンが並び、日販グループとしての総合的な価値をご提案できた事例となりました。

○コンテンツ事業

単位：百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	1,730	1,412	122.5
営業利益	513	461	111.2
経常利益	512	486	105.3

コンテンツ事業は、売上高 1,730 百万円(前年比 122.5%)、営業利益 513 百万円(前年比 111.2%)、経常利益 512 百万円(前年比 105.3%)、25 百万円の増益となりました。

(株)ファンギルドは、すべての漫画レーベルが増収となり好調でしたが、特に「Rush!」レーベルのヒットが売上拡大に大きく貢献しました。さらにアジアを中心とした海外販売の売上も伸長し、事業全体として増収増益となりました。

○エンタメ事業

単位：百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	1,740	1,600	108.7
営業利益	61	20	304.1
経常利益	61	21	284.5

エンタメ事業は、売上高 1,740 百万円(前年比 108.7%)、営業利益 61 百万円(前年比 304.1%)、経常利益は 61 百万円(前年比 284.5%)、39 百万円の増益となりました。

検定については、新規に 7 件を立ち上げ、年間 49 件もの検定を運営しました。

イベントについては、「ねこ検定」から派生した「にゃんぱく」を新たに立ち上げ、約 8,000 名の方にご来場いただきました。また、2019 年 12 月には「文具浪漫」をテーマとして、「文具女子博 2019」を開催しました。3 回目の開催となった今回は、来場者数は前回は大きく上回る 3 万 8,000 人に達し、改めて“文具熱”の高まりを感じることができました。

映像部門では、映画「すみっコぐらし とびだす絵本とひみつのコ」がヒットしました。

新型コロナウイルスの影響で、「文具女子博 petit 仙台」など、2 月後半以降の検定・イベントがほぼ中止になってしまったものの、事業全体として増収増益となりました。

なお、2020 年 4 月より、日販セグモ(株)を設立し、従来の日販エンタメ事業部で行っていた検定ソリューション事業およびイベント事業を移管しています。日販セグモは「一人ひとりが輝ける“場”を作りたい。」というスローガンのもと、これからも様々なエンタメ事業の拡大に挑戦してまいります。

○不動産事業

単位：百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	2,947	2,614	112.7
営業利益	1,169	1,091	107.1
経常利益	1,125	1,072	105.0

不動産事業は、売上高 2,947 百万円(前年比 112.7%)、営業利益 1,169 百万円(前年比 107.1%)、経常利益 1,125 百万円(前年比 105.0%)で 53 百万円の増益となりました。

新お茶の水ビルディングは現在満床となっており、安定した収益を確保しております。また当期は大規模修繕が一段落し、増益となりました。

(株)蓮田ロジスティクスは倉庫事業から借地事業へ転換したことにより増収増益となりました。

○その他の事業

単位：百万円・%

	2019年度	2018年度	前年比
売上高	5,304	4,271	124.2
営業利益	106	23	445.5
経常利益	534	25	-

その他の事業は、売上高 5,304 百万円(前年比 124.2%)、営業利益 106 百万円(前年比 445.5%)、経常利益 534 百万円、509 百万円の増益となりました。なお、持株会社体制移行に伴い、従来取次事業に含めていた受取配当金、金融収支については、2019年度よりその他の事業へ区分を変更しております。

日販テクシード(株)では、外販事業において大手企業様との取引や、医療機関様の大型案件獲得を実現しました。また、事業領域の拡大に向け、タブレット連動型ロボット「こくり」のリテール展開として実証実験等を開始しました。

(株)ASHIKARI の運営するブックホテル「箱根本箱」は、2019年8月に開業1周年を迎えました。ホテルという長時間滞在できる場所に本棚を組み合わせ、多様な価値に出会う滞在体験を生み出していることが評価され、2019年度の「グッドデザイン・ベスト100」を受賞いたしました。お客様からもご好評をいただき、稼働率は高水準で推移しております。

日本緑化企画(株)は、直営店「アラ GINZA TOKYO」が2019年8月に開園1周年を迎えました。商業施設やオフィス等を中心に造園の設計・施工、グリーンレンタル等のサービス展開拡大に取り組んでおります。

1-3. 連結計算書類

① 連結貸借対照表

単位：百万円

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	2019年度 (第72期)	2018年度 (第71期)	前年差異	科 目	2019年度 (第72期)	2018年度 (第71期)	前年差異
	金 額	金 額			金 額	金 額	
流 動 資 産	178,561	207,656	-29,095	流 動 負 債	184,919	216,685	-31,766
現金及び預金	42,784	50,559	-7,775	支払手形及び買掛金	139,481	171,363	-31,881
受取手形及び売掛金	93,522	112,902	-19,379	電子記録債務	8,615	8,187	428
有価証券	1,947	2,529	-582	短期借入金	14,471	13,642	828
たな卸資産	33,816	35,986	-2,169	未払法人税等	675	550	124
その他の流動資産	7,957	6,861	1,095	諸引当金	5,667	5,674	-6
貸倒引当金	-1,467	-1,183	-284	その他の流動負債	16,007	17,266	-1,259
固 定 資 産	82,509	83,906	-1,396	固 定 負 債	20,501	19,351	1,150
有形固定資産	55,447	56,638	-1,190	長期借入金	2,723	1,551	1,171
無形固定資産	3,065	3,776	-711	退職給付に係る負債	5,139	5,137	2
投資その他の資産	24,555	24,610	-55	その他の固定負債	12,639	12,662	-23
貸倒引当金	-558	-1,118	560	負 債 合 計	205,420	236,037	-30,616
資 産 合 計	261,070	291,562	-30,492	純 資 産 の 部			
				株 主 資 本	36,923	36,668	255
				資 本 金	3,000	3,000	-
				資 本 剰 余 金	-	-	-
				利 益 剰 余 金	35,761	35,495	266
				自 己 株 式	-1,837	-1,826	-10
				そ の 他 包 括 利 益 累 計 額	13,736	13,772	-36
				非 支 配 株 主 持 分	4,989	5,084	-95
				純 資 産 合 計	55,649	55,525	124
				負 債 及 び 純 資 産 合 計	261,070	291,562	-30,492

② 連結損益計算書

単位：百万円・%

科 目	2019年度 (第72期)		2018年度 (第71期)		前年比	前年差異
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比		
売 上 高 合 計	515,922	100.0	545,761	100.0	94.5	-29,839
売 上 高	526,427		556,864		94.5	-30,437
売 上 割 戻	10,504		11,102		94.6	-598
売 上 原 価	447,293	86.7	475,435	87.1	94.1	-28,141
売 上 総 利 益	68,629	13.3	70,326	12.9	97.6	-1,697
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	66,154	12.8	69,299	12.7	95.5	-3,145
販 売 費	24,580		25,484		96.5	-903
一 般 管 理 費	41,574		43,815		94.9	-2,241
営 業 利 益	2,474	0.5	1,026	0.2	241.0	1,447
営 業 外 収 益	475	0.1	552	0.1	86.0	-77
受 取 利 息	89		83		107.9	6
そ の 他 の 収 益	385		469		82.1	-84
営 業 外 費 用	508	0.1	495	0.1	102.5	12
支 払 利 息	85		88		96.5	-3
そ の 他 の 費 用	423		407		103.8	15
経 常 利 益	2,441	0.5	1,084	0.2	225.2	1,357
特 別 利 益	174	0.0	466	0.1	37.5	-291
特 別 損 失	1,253	0.2	707	0.1	177.2	546
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	1,362	0.3	843	0.2	161.6	519
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	899		785		114.4	113
法 人 税 等 調 整 額	-489		294		-	-783
当 期 純 利 益	953	0.2	-236	-0.0	-	1,190
非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	171	0.0	-27	-0.0	-	199
親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	781	0.2	-209	-0.0	-	990

2. 補足資料

2-1. 連結子会社一覧 (27 社)

事業	会社名
取次事業	日本出版販売株式会社
	株式会社MPD
	株式会社MPDパートナーズ
	C5SP 株式会社
	お茶の水商事株式会社
	株式会社マクス
	出版共同流通株式会社
	中三エス・ティ株式会社
	日販物流サービス株式会社
	株式会社B・Story
	MO商会株式会社
小売事業	NICリテールズ株式会社
	プラス株式会社
	株式会社すばる
	株式会社多田屋
	株式会社リブロプラス
	株式会社クロス・ポイント
	株式会社積文館書店
	株式会社いまじん白揚
	株式会社Y・space
海外事業	日販アイ・ピー・エス株式会社
雑貨事業	株式会社ダルトン
コンテンツ事業	株式会社ファンギルド
不動産事業	株式会社蓮田ロジスティクス
その他の事業	日販テクシード株式会社
	株式会社ASHIKARI
	日本緑化企画株式会社

2-2. 連結主要経営指標の推移

単位：百万円・人・社

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	639,893	624,422	579,094	545,761	515,922
営業利益	2,738	2,208	2,366	1,026	2,474
経常利益	3,291	2,409	2,550	1,084	2,441
親会社株主に帰属する当期純利益	856	412	721	▲209	781
純資産額	55,766	56,331	56,429	55,525	55,649
総資産額	299,500	295,906	302,074	291,562	261,070
従業員数	3,108	2,989	2,945	2,907	2,656
(他 年平均臨時雇用者数)	(5,700)	(5,641)	(5,719)	(5,975)	(5,714)
連結対象子会社数	25	30	28	25	27